

## 第1学年1組 図画工作科学習指導案

平成27年11月7日(土) 第5校時

児童数 11名

指導者 除村 美和

場所 なかよしルーム

- 1 題材名 てでさわってかくのきもちいい  
A 表現(2)ア、イ、ウ  
B 鑑賞(1)ア、イ

### 2 題材について

#### (1) 児童の実態

本学級の児童は、6月に行ったアンケートの結果、「図画工作の学習が好き」や「絵で表現する学習が好き」と全員の児童が回答している。児童は、これまでに「すきなもののいっぱい」の学習では、八つ切画用紙の全紙、または、小さく切った画用紙を自分で選び、それぞれが好きな物をクレヨンを使って表すことを体験している。そして、『じぶんマーク』でみんなともだちの学習では、カラーペンを使って自分の好きな物に手や足をつけて自分マークを表すことができた。さらに、「クルクルぐるーり」の学習では、プレ題材として、全員で教室の床にロール模造紙を置き、共同絵の具で筆を使って「クルクル」をかき、その後四つ切り画用紙に個々で表現した。したがって児童は、これらの学習からいろいろな描画材で表現する楽しさを経験している。

#### (2) 題材について

本題材は、液体粘土と絵の具を混ぜ合わせて、その感触を十分に味わい、さらに、絵の具の心地よい感触を味わいながら、直接指や手のひらで思いのままにかいたりぬったりする活動を楽しむ題材である。児童は、液体粘土に共同絵の具を混ぜ合わせて、「どろどろ絵の具」という描画材をつくり、指や手のひらを使って、思いついたものを直接、画用紙にかいていく。その際、造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開くことができると考える。また、その感触の心地よさや色の美しさから新たな活動を発想したり、いろいろな表現を試したりできる題材である。

#### (3) 本題材を指導するに当たって

指導に当たっては、プレ題材で一人一つの練り板を使い、液体粘土と絵の具の組み合わせでできる色の美しさを全員が体験できるようにさせる。また、今回初めて液体粘土を使うので、液体粘土は絵の具の混ぜ方によって色が変わってくることを体験する中で気付かせていきたい。そのため絵の具は、最初一人一色ずつ皿にわけておき、練り板の上で絵の具と液体粘土を混ぜる体験をさせる。その後、さまざまな色を試すことができるように、あらかじめ「どろどろ絵の具」をつくっておく。体全体を使って活動できるように、汚れてもいい服と濡れタオルを用意させるとともに、なかよしルーム(多目的ルーム)を活動の場とした。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 「感性を働かせ、自ら学び、伝え合う子の育成」

副題 図画工作科における児童の思考力・判断力・表現力を育む指導方法の工夫

仮説1 「導入」の工夫や「展開」において豊富な材料・技法を体験させることにより児童は、感性を働かせ自ら学ぶことができるであろう。

手立て

- ①教科書を効果的に活用して、課題をわかりやすくおさえられるように工夫し、興味・関心を高め、児童が活動の見通しを持てるようにする。
- ②導入は題材の最初の時間は15分以内、その他は5分以内とし、製作の時間を十分に確保する。
- ③「展開」において、プレ題材を実施し、「どろどろ絵の具」の色を自分で選べるようにしたり、手や指の機能を活用することによってさまざまな形を表すことができたりすることを体験させる。

仮説2 「まとめ」及び作品提示の仕方や「展開」において個に応じた支援を行うことにより、児童は感性を働かせ伝え合う力を高めることができるであろう。

手立て

- ①活動の過程で鑑賞を行うことで、試して見つけた工夫を学び合う機会を増やす。
- ②意図的な言葉かけをすることで、児童の思いを生かす支援をする。
- ③協力して時間内に片付けをさせる。
- ④作品提示の工夫をする。

※「4つの実践と3減運動」との関わり

- ・授業中のあいさつ、返事の励行
- ・鑑賞での友達との認め合い

#### 4 目標及び評価規準

##### (1) 目標

液体粘土と絵の具の感触を体全体で感じ、形や色などから思いついたことを絵に表して楽しむ。

##### (2) 本題材における〔共通事項〕

「どろどろ絵の具」をつくったり、手でかいたりぬったりしながら、形や色をとらえて、自分のイメージをもつ。

##### (3) 本題材における評価規準〔◆「努力を要する」と判断される状況(C)の児童への支援〕

※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
どろどろ絵の具を手のひらにつけて、かいたり、ぬったりする感触を味わいながら、かく活動を楽しんでいる。	体全体の感覚を働かせながら、 <u>形や色、肌触り</u> などを感じ取り、 <u>表したいことを</u> 思い付いている。	指や手のひらでかいたりぬったりしながら、 <u>どろどろ絵の具の表現、色の違い</u> などを生かし、 <u>表し方</u> を工夫している。	自分や友達の作品や活動から、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。

◆汚れても大丈夫であることを示し、安心して取り組むことや友達と一緒に楽しく活動することを促す。	◆対話を通して、形や色、肌触りなどの感じに目を向けるようにする。 ◆友達と互いに見合いながらいろいろなイメージを思い浮かべられるようにする。	◆指や手の使い方によって、違った感じのどろどろ絵の具の跡になる面白さや、色を選ぶ、混ぜるなどの活動を促し、色の面白さに目を向けるようにする。	◆自分の作品の気に入ったところを話すようにしたり、気に入った友達の作品を選び、面白さや楽しさを友達と話し合ったりする。
---	---	--	---

5 指導計画・評価計画（4時間扱い） ※**教**マークは教科書を活用する場合

	学習活動	<b>関</b>	<b>発</b>	<b>創</b>	<b>鑑</b>	評価方法
①	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提案1：どろどろえのぐはかせになろう。</div> ○プレ題材を体験する。 <b>教</b>	○				<b>関</b> 行動観察・発言表情
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提案2：どろどろえのぐでかいてみよう。</div> ○参考作品を見る。 <b>教</b> ○一人ずつ1枚の色画用紙（四つ切）にかきたいものをイメージし、表現する。		○	○		<b>発</b> <b>創</b> 行動観察・表現 行動観察・発言表情
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提案3：このかたち、このいろなににみえるかな。</div> ○できた形や色に合わせて描画材を選び、イメージを広げて表現する。		○	○		<b>発</b> <b>創</b> 行動観察・表現 行動観察・発言表情
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提案4：どろどろえのぐてんらんかいをしよう。</div> ○自分や友達の作品の表し方のよさを見つけたり、話し合ったりする。				○	<b>鑑</b> 行動観察・発言表情 振り返りカード

6 本時の学習（本時 1 / 4 時）

(1) 目標

- ・液体粘土や絵の具を手のひらにつけて、ぬったり、かいたりする感触を味わいながら、かく活動を楽しんでいる。【**関**】

(2) 準備

- 教師 教科書、液体粘土、共同絵の具、ロール画用紙、液体粘土を入れる容器（皿、練り板）、タオル、ブルーシート、バケツ、色画用紙、ロール画用紙、どろどろ絵の具


○児童 教科書、タオル、汚れてもいい服装

(3) 展開

時間	学習活動	学習内容	<p>○指導上の留意点(配慮・手立て)</p> <p>◎評価〔共〕共通事項に係る内容</p> <p>◇十分満足できる状況</p> <p>◆努力を要する児童への手立て</p>
<p>導入 10分</p>	<p>※<b>教</b>マークは教科書を 活用する場面</p> <p>提案1： だろだろえのぐはかせになろう。</p> <p>1 題材を知る。 【仮説1 手立て②】</p> <p>2 参考作品を見て、製作の仕方を想像する。</p> <p>3 見通しをもつ。</p> <p>4 だろだろ絵の具の作り方を知る。<b>教</b> 【仮説1 手立て①】</p>	<p>○だろだろ絵の具の作り方</p>	<p>○題材名を黒板に掲示する。</p> <p>○作品に簡単に触れ、本題材への興味・関心を持たせる。</p> <p>○本時の流れを黒板に掲示する。</p> <p>○児童を1箇所に集め、だろだろ絵の具の作り方を示範する。</p> <p>○手を拭くために濡れタオルを用意しておく。</p>
<p>展開 25分</p>	<p>5 プレ題材を体験する。 【仮説1 手立て③】</p>	<p>○だろだろ絵の具の特徴を知ること</p>	<p>○一人一皿(絵の具)を渡す。</p> <p>○あらかじめ机に新聞紙を敷き、練り板、液体粘土を置いておく。</p> <p>○最初は机でだろだろ絵の具の感触を楽しむ。</p> <p>○児童の関心を高めるため、展開の途中で、ついたてを教師が外し、紙の上でぬったりかいたりする活動に移れるようにする。</p> <p>○白と紺のロール画用紙を行き来してよいことを伝える。</p> <p>◎液体粘土や絵の具を手のひらにつけて、ぬったり、かいたりする感触を味わいながら、かく活動を楽しんでいる。【関】</p> <p>◇指や手のひらで、練り板やロール画用紙に、だろだろ絵の具をぬったりかいたり楽しみながら、いろいろな表し方を進んで試している。</p> <p>◆汚れても大丈夫であることを伝え、友人の活動を少し見させて、対話しながら一緒に考え、試し</p>

			ていけるように支援する。
ま と め 10 分	7 本時のまとめと次時の活動を知る。		○作品を鑑賞し合い、互いの作品のよさや表し方の違いなどを感じ取って、次時の参考にする。 ○次時は、四つ切の色画用紙にそれぞれかいていくことを伝える。
	8 片付けをする。 【仮説2 手立て③】		○協力して時間内に片付けができるようにする。

7 板書計画



**てでさわってかくのきもちいい**

だろだろえのぐはかせになろう

11/7	①	だろだろえのぐはかせになろう	だろだろえのぐのひみつ	だろだろえのぐのやくそく
11/11	2	だろだろえのぐでかいてみよう	教科書 P.23 を 書画カメラで 映す	○そでをまくる。 ○バケツのなかで、てをあらう。 ○ぬれタオルで、てをふく。
11/13	3	このかたち、このいろなにみえるかな		
11/18	4	だろだろえのぐてんらんかいをしよう		

8 場の設定（なかよしルーム）

○…児童 □…練り版 生活科用机（低）3、なかよしルーム机（高）2

